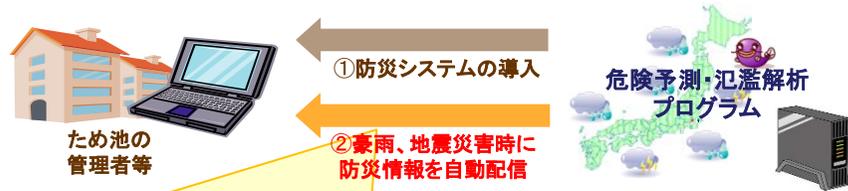


ため池の決壊危険度と予想氾濫エリアを自動配信する防災システム

技術の概要

- ・ 豪雨と地震災害に対するため池の総合的な防災システム。
- ・ システムの導入により、豪雨、地震災害時の決壊危険度を予測し、その結果をため池の管理者にメールで自動配信。



パソコンに配信

豪雨時の防災情報(例)



地震時の防災情報(例)



携帯電話等に配信

豪雨時の防災情報(例)

市町村	所在地	ため池 名称	危険度(●:危険度小、●:危険度中、●:危険度大)						
			現在	1時間後	2時間後	3時間後	4時間後	5時間後	6時間後
T市	T市X町	A池	●	●	●	●	●	●	●
T市	T市Y町	B池	●	●	●	●	●	●	●
T市	T市Z町	C池	●	●	●	●	●	●	●

ため池の危険度をメール配信

地震時の防災情報(例)

From XXX@XXX
To △△△@△△△
地震が発生しました(震度4)。
Bため池を確認して下さい

期待される効果

- ・ 豪雨や地震による災害回避のための地域住民の避難誘導が適時に可能となり、人的社会的な被害を軽減。
- ・ 災害時の危機管理体制を整備する際の有用な情報として活用可能。

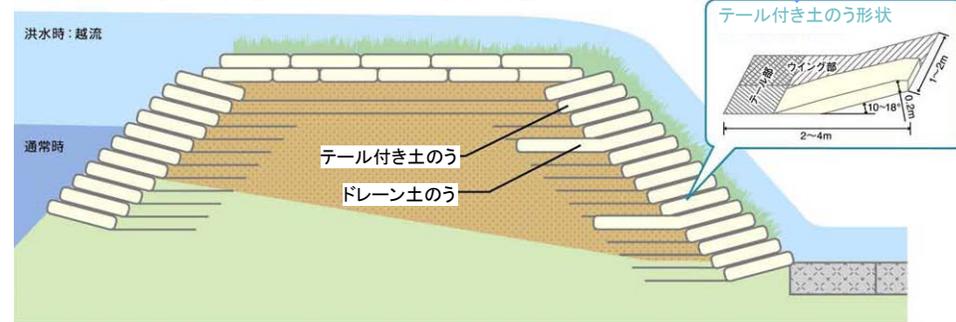
従来工法よりも水による侵食に強い堤防の補強技術

技術の概要

- ・ 「テール付き土のう」を傾斜して積み上げて堤防を補強する工法。
- ・ 豪雨時に発生する越流に対して高い耐久性を発揮。



「テール付き土のう」を「傾斜積み」した堤防(構造図)



本技術のメリットとデメリット

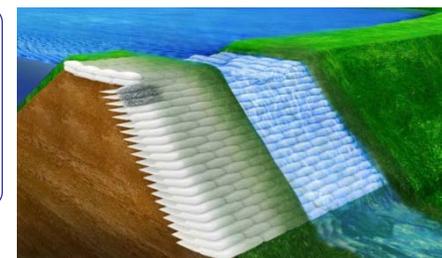
メリット

- ・ 土地条件の制約を受けにくい。
- ・ 洪水や土石流に対する安全性が高まる。

デメリット

- ・ 20~30年毎にメンテナンス(覆土)が必要。

越流時も高い耐久性を維持(イメージ)



期待される効果

- ・ 被災ため池や老朽化ため池の安全性を向上。
- ・ 高い耐震性を有しており、ため池や水路護岸、農道の盛り土への適用だけでなく、海岸堤防への応用も可能。